

2013 年度若手研究助成

犯罪者の環境認知と犯罪行動 －住宅侵入犯による環境特性評価と犯罪行動の関連－

研究者 岩倉 希（福島刑務所）

＞研究の概要（助成開始時）

近年の犯罪発生メカニズムに関する研究では犯罪企図者、犯行対象、環境の 3 要素が不可欠であるとされ、物理的要因が人間の行動に影響を及ぼし犯罪誘因となりやすいことが指摘されている。しかし犯罪企図者の心理に対して、具体的にどのような環境が、どのように作用し、犯罪の抑止要因として機能するかを明らかにした心理学的な分野での実証的な研究は、日本ではほとんど見られない。

本研究は、現在刑務所で受刑中の住宅対象侵入犯に対し、住宅とその周辺の環境特性評価について調査実験を行うことにより、犯罪者側の視点で犯行対象として適当または危険であると認知される住宅環境や物理的要因を明らかにする。犯罪者が地域や住居をどのように犯行対象として認知するか、あるいは認知する際の手がかりに何を情報として用いるかなど、犯罪者側の視点で検討し、犯罪遂行の意思決定に影響を与えうる環境特性を明らかにする。

本研究により得られた結果と、これまでの防犯対策において一般的に考えられてきた犯罪を抑止する環境条件との比較を行うことにより、既存の防犯対策の有効性の検証と、犯罪者の意思決定に対してより影響を及ぼすことのできる防犯対策の提示を行う。

＞選考委員会からのコメント

住宅侵入犯から直接聴取する貴重な調査研究である。最近の日本における先行研究の知見を踏まえつつ、侵入開口部の選択、当該開口部の道路からの見え方や接近経路等、もう少し具体的な調査を期待したい。